

一般演題3-4

高気圧酸素治療におけるマットの選定をおこなって

新家和樹¹⁾ 天野陽一¹⁾ 間中泰弘¹⁾

水谷 瞳¹⁾ 山之内康浩¹⁾ 内藤明広²⁾

- 1) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科
2) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 乳腺外科

【はじめに】

当院は第一種装置2台を保有し、新規患者は年間約200名となる。治療中のご意見をいただく事も多く、改善をふまえ患者満足にむけたアンケートを実施し、治療中の寝心地に関する意見が目立った(表1)。今回、新たなマットの導入について検討・評価を報告する。

【方法】

- ・ マット: 現在使用しているマットAの他、6種類のマット(B~G)の計7種のマットで体圧測定を実施。また、寝心地の良さのアンケートを集計。(1位, 2位, 最下位)
- ・ 対象者: 身長・体重の異なる当院のスタッフ11名(男性:8名 女性:3名)
- ・ 測定部位: 頭部~足の付け根
- ・ 体圧測定機: SRソフトビジョン(半身版)住友理工株式会社製

【結果】

圧力平均値はマットDがもっとも低く(29mmHg)、もっとも高かったのはマットC(38mmHg)であった。部位の最大圧力では、平均値でマットD(78mmHg)が最も低く、もっとも高かったのはマットA(108mmHg)であった。マットの接触面積では、最も大きかったのはマットD(392cm²)であり、もっとも小さかったのはマットA(276cm²)であった。今回の測定ではそれぞれの項目において、現在使用しているマットと一番良かったマットでは有意さがみられた。

アンケート結果は、マットDが最も良いという声が多く、マットAが最も悪いという結果になった(表2)。

ソフトビジョンの測定においてもマットAとマットDと比較すると体の部位にかかっている圧力が高いところは少なく、接触面積も広がったため体圧分散がされている結果となった(図1)。

【まとめ】

今回の結果より現在使用しているマットAは褥瘡ができやすい環境であったことが判明した。第一種装置における治療では、動くことができない患者は寝返りをうつことができず、褥瘡ができやすいため体圧マットによる体圧分散は重要である。

今回の結果をふまえ、安全面を考慮したうえで現在使用しているマットを褥瘡予防および寝心地の良いマット導入を検討し、さらなる高気圧治療における環境改善につとめていく。

表1 患者アンケート ベッドの寝心地の良さ

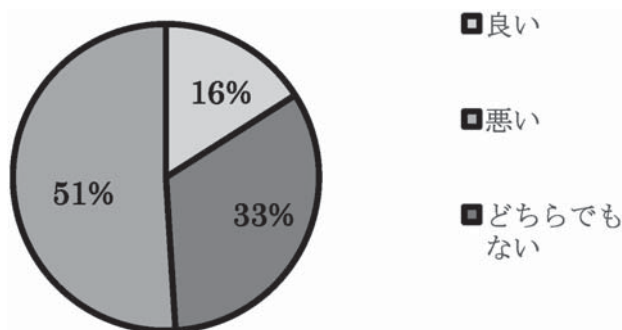


表2 アンケート結果(寝心地の良さ)

	A	B	C	D	E	F	G
①	w			2			1
②	w			1		2	
③	w		2	1			
④	w			2		1	
⑤	w	2			1		
⑥	w			1	2		
⑦	w				1		2
⑧	w			2	1		
⑨	w			1			2
⑩		1	w	2			
⑪	w			2		1	

1位...1
2位...2
最下位...w

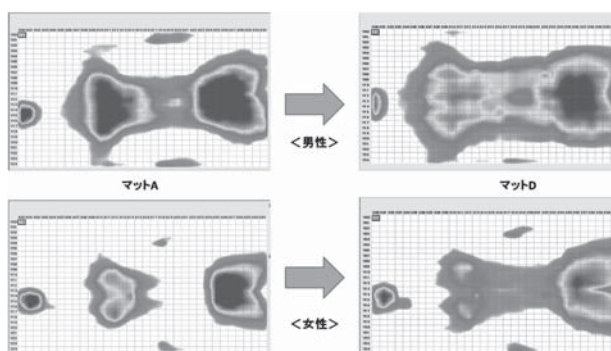


図1